コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2024年1月18日

1. 下水サーベイランス／札幌市
2. BMJ:新型コロナワクチンは、ヨーロッパで140万人の命を救った：WHO報告

【松崎雑感】

１．道北（北海道北部）では、コロナとインフルの同時流行中です。軽症のことが多いですが、油断大敵です。

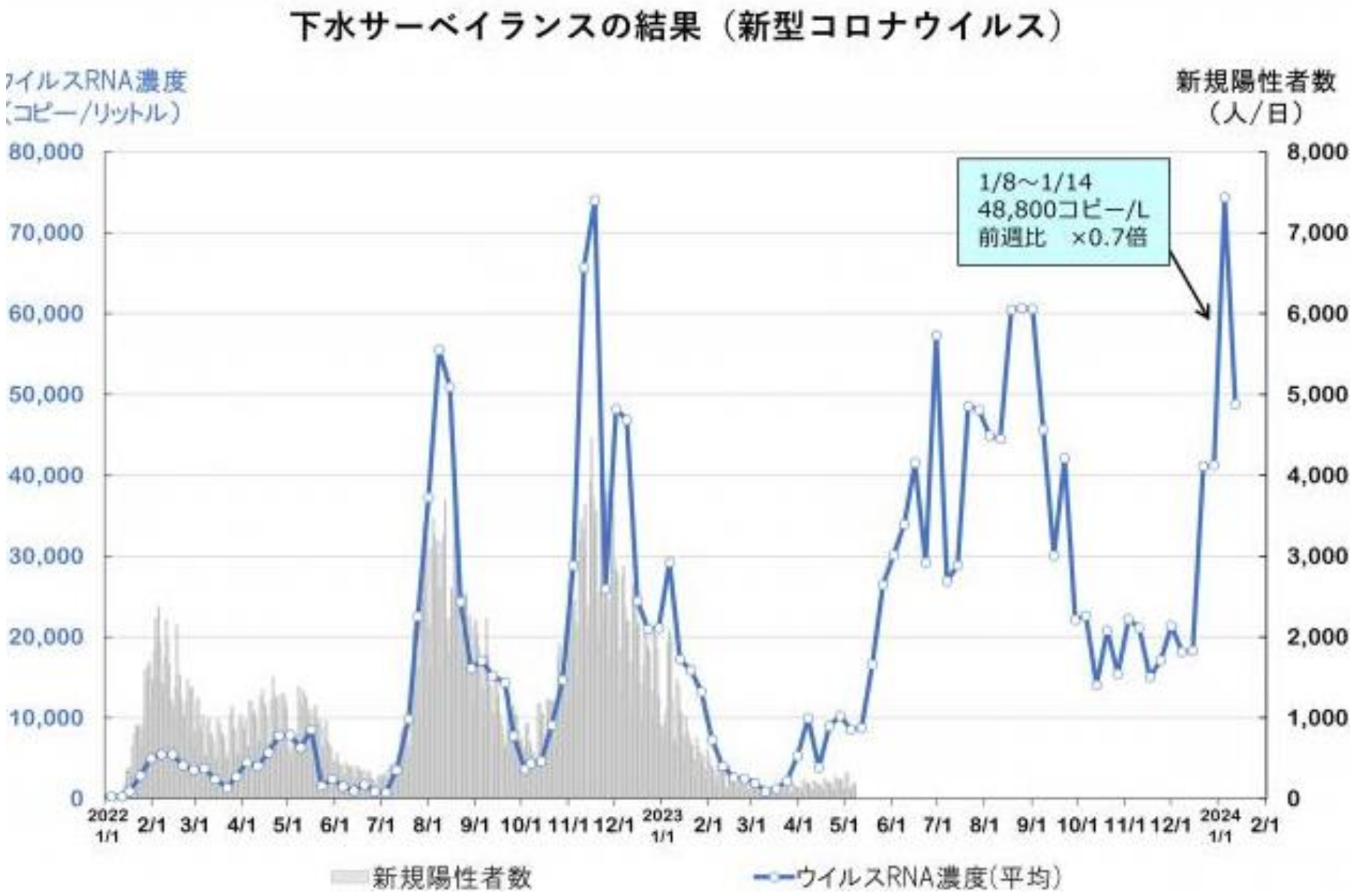
２．WHOヨーロッパが、新型コロナワクチンの死亡防止効果を発表しました。ワクチン接種群と未接種群の死亡率の差を調査したものです。

新型コロナワクチンは、感染の重症化防止だけでなく、ロングコロナリスクを減らすうえで有益だという報告もあります。

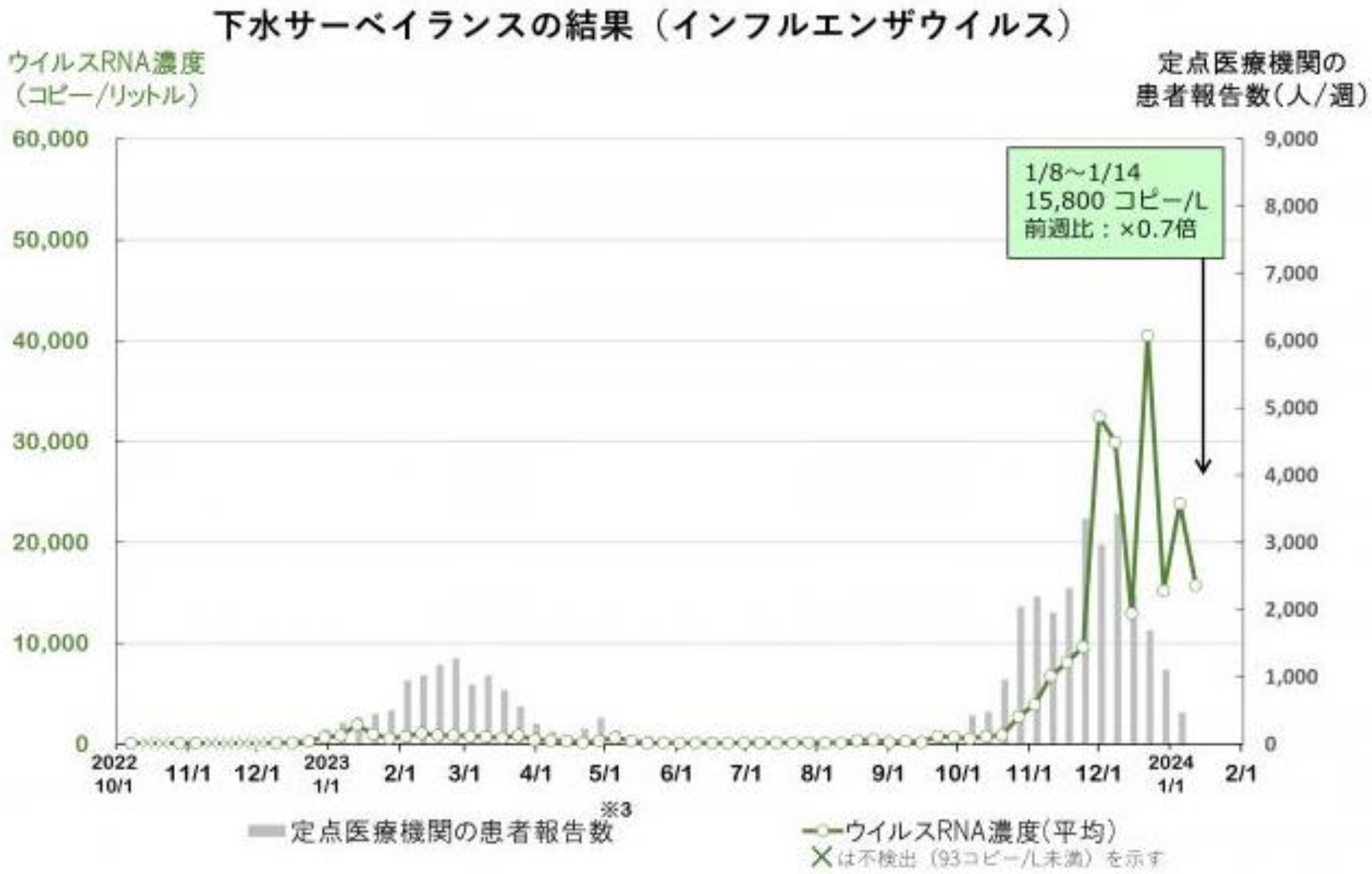
松崎道幸　道北勤医協ながやま医院　matsuzaki-m@dohoku-kinikyo.or.jp

下水サーベイランス／札幌市（city.sapporo.jp）

新型コロナウイルス濃度は前週から減少しましたが高い水準を継続しており、引き続き警戒が必要です。



インフルエンザウイルス濃度は前週から減少しましたが高い水準を継続しており、引き続き警戒が必要です。



新型コロナワクチンは、ヨーロッパの140万人の命を救った：WHO報告

Iacobucci G. Covid-19: Vaccines have saved at least 1.4 million lives in Europe, WHO reports. *BMJ*. 2024;384:q125. Published 2024 Jan 17. doi:10.1136/bmj.q125

世界保健機関(WHO)の推計によると、新型コロナワクチン接種により、欧州での死亡は少なくとも57%減少した。これは140万人の命が救われたことを意味する。

WHO欧州の研究者が発表したプレプリント論文によれば、WHO欧州地域において250万人が新型コロナにより死亡したと報告されているが、もしワクチンがなければ、死亡者数は150万人増え、400万人に上る可能性があると推計している。

1月16日の記者会見で、WHO欧州地域事務局長のハンス・クルーゲ氏は、「これまでに、ヨーロッパでは、新型コロナワクチンを接種するという決断を実行したおかげで死なずに済んだ140万人の高齢の人々が、愛する人との生活を楽しんでいる。これがワクチンの力であり、まぎれもない真実である」と語った。

研究者らは、34カ国から報告された新型コロナ死亡率とワクチン摂取率のデータ、および文献からのワクチン有効性データを使用して、予想される死亡と報告された死亡の差（減少率）を計算した。

その結果、2020年12月から2023年3月にかけて、ワクチンによって70～79歳で57%、60～69歳で54%の死亡が減少したと推計された。死亡率は50-59歳の年齢層で52%減少した。ワクチン接種の恩恵を最も受けた年齢層は80代以上で、死亡率は62%減少した。

国によるばらつきは接種率の差だろう

この報告書には、ベルギー、デンマーク、アイスランド、アイルランド、イスラエル、マルタ、オランダ、英国など、人口の大部分を対象とした早期ワクチン接種プログラムを実施した国が、ワクチン接種によって救われた命の総数において最大の利益を得たことを示す国別のデータが掲載されている。

イスラエルはすべての年齢層で死亡率が75%減少し、最も大きな利益が見られ、マルタ(死亡減少率72%)とアイスランド(71%)がそれに続いた。最も効果が小さかったのは、ウクライナ(15%)、ルーマニア(20%)、コソボ(21%)だった。

WHOと欧州のWHO緊急事態担当チームを率いるマーク・アラン・ウィドウソン氏はブリーフィングで、各国の高齢者数にばらつきがあるなど、他の要因も調査結果に影響を与えた可能性があると述べたが、ワクチン接種のタイミングと接種率が「2つの主要な重要な要素である」と述べた。

早期にワクチン接種を行い、ワクチン接種率の高い国ほど、ワクチン接種が少し遅れた国よりも、はるかに多くの死亡が回避される可能性が高い」と述べた。

この研究では、2021年12月から2023年4月までのオミクロン株の期間中、新型コロナワクチン接種によって死亡リスクが大きく低下したため、70万人の死亡が防がれたことがわかった。

ウィドウソン氏は「この報告書で明らかになっているのは、ブースター接種の繰り返しに死亡リスク減少の明らかな効果がある事だ。これは、特に高齢者、基礎疾患を持つハイリスクグループは毎年ワクチンを接種する必要があるというWHOのメッセージを改めて示している」と語った。

インフルエンザの急増

ブリーフィングでは、WHOスタッフがヨーロッパにおける呼吸器感染症の最新の有病率を報告した。クルーゲ氏によると、過去2週間で、欧州地域ではインフルエンザの入院患者数が58%増加し、集中治療室への入院患者数が21%増加し、65歳以上の人々と、年少の子どもたちが最も影響を受けていると報告した。「医療システムは、今後数週間でインフルエンザの症例が急増する可能性に備える必要があります」と指摘された。

WHOは、コビドやインフルエンザに加えて、RSV、マイコプラズマ、麻疹などの病原体が子供の入院増加を引き起こしていると発表した。

クルーゲ氏は、「呼吸器系ウイルスの同時流行により、病院が局地的に逼迫し、緊急治療室が過密状態になっているという報告を懸念している」と付け加えた。

新型コロナウイルスの流行はヨーロッパ全体でおおむね低下しているが、WHOは新型コロナの予測不可能性と、JN.1.2として知られる新しい変異株の出現を指摘し、この状況が変わる恐れもあると警告している。

クルーゲ氏は、多くの国がWHOへの新型コロナ報告を停止または縮小していることに懸念を表明した。

「様々な呼吸器系ウイルスが流行しているなかで、新型コロナのサーベイランスがいかに重要であるかは、いくら強調してもしきれない」と彼は述べた。「サーベイランスは、依然として私たちの感染症とのたたかいの最前線です」